こんにちは
ヴェラス
HIKARI HEIGHTS VARUS
2017 冬
vol.43

今月の主な記事

■特集／ご挨拶 ㈱光ハイツ・ヴェラス 代表取締役社長 森 千恵香
■ヴェラスに暮らす／ヴェラス琴似ご入居の柴谷様
■悠々ライフ／歌と笑顔のクリスマス会（ヴェラス・クオーレ南19条）
■投稿／クラーク先生と弟子たち〈第3回〉（琴似 高橋秀子）
■ヴェラス交流館／短歌・俳句
■話題のモノゴト／2017冬季アジア札幌大会

新年明けまして おめでとうございます

㈱光ハイツ・ヴェラス 代表取締役社長
森 千恵香

当社光ハイツ・ヴェラス、およびヴェラス・クオーレにご入居のみなさまとご家族のみなさま、並びに本誌ご愛読のみなさまにおかれましては、穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、観測史上初めて1週間に3つの大型台風が北海道に上陸し、全道各地、特に南富良野、十勝清水周辺地域が甚大な被害を受け、未だに日高と清水間の国道は復旧できていない状況です。さらに、年末には同じく十勝清水において鳥インフルエンザの発症が確認されました。これにより約30万羽の鶏の処分が行われ、養鶏農家は台風に続き甚大な被害を受け、町民の不安が拡大しました。

被災されたみなさまには心よりお見舞申し上げますとともに、一日も早い事態の終息と被災地域の全面復旧がされることをお祈り申し上げます。

台風被害においては、高齢者と要介護者が最も大変な思いをされています。当社は札幌と小樽において、8施設の有料老人ホームと1施設のサービス付き高齢者向け住宅を運営し、約1,160名のご入居者が生活されております。今後、どのような災害が起きるかは予想できませんが、ご入居のみなさまに対し、想定できる最大限の対応策をとることが私たちの使命であることを、この度の災害により、改めて認識いたしました。

さて、光ハイツ・ヴェラスの昨年を振り返りますと、4月21日に当社設立30周年を迎えることができました。これもひとえに、ご入居のみなさま並びにご家族のみなさまのご支援の賜と、心より感謝申し上げます。

30周年を機に、石山、月寒公園、藤野の3施設におきまして、現状の一時金方式に加え、月額家賃方式を取り入れるとともに、料金の見直しにより今まで以上にご入居しやすくいたしました。

7月には、当社では初めての通所介護（デイサービス）事業を開始し、8月には石山、月寒公園、藤野の3施設にて短期入所（ショートステイ）事業も開始いたしました。札幌市内でも、特に高齢化の進む南区藤野地区において、介護保険制度並びに高齢者住宅事情について、また当社の施設紹介のセミナーを2月と10月に開催し、多くの方々にご参加いただきました。引き続き同様のセミナーを開催し、入居促進につなげたいと考えております。

当社は、本年も業界の動向を把握しながら、新たな事業展開を慎重に模索するとともに、人材確保並びに介護技術と接遇レベルの向上を目指す職員教育を進めて参ります。

みなさまのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げますとともに、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

人と人をつなぐ、布の絵本の物語

ヴェラス琴似ご入居
柴谷 澄子（しばや・すみこ）さん

すべて手作りの布絵本

フェルトや布で作られた「布絵本」は、見るだけでなく触れて感じることができ、子どもが口に入れても安全なことから、若い母親に人気です。柴谷澄子さんは、布絵本をこれまで30冊あまり手作りしてきました。「ももたろう」など昔話のほか、人気絵本作家の作品は許可を取り、作品の絵をそのまま布で表現。現在は、柴谷さんオリジナルのストーリーと絵で、自身の深い思いを込めた絵本を制作しています。

＊

柴谷さんは、5年ほど前まで道南の今金町にお住まいでした。昭和49年、ご主人の勝俊さんが私財を投じ、知的障がい者の施設を今金町に設立。福祉施設が今ほどなかった時代で、施設としては先駆的でした。

「明治時代、日本初の女性医師になった荻野吟子とキリスト教伝道師の夫は、今金町神丘に人々が助け合って生きる理想郷を作ろうとしました。そのゆかりの地に、障がい者とともに生きる場所を作ったのは、吟子さんの情熱や開拓精神に共鳴したからです」と、柴谷さんは話します。自身も教職を辞し、勝俊さんとともに障がい者の支援にあたりました。

子どもたちや障がいを持つ人とのふれあいの中で、五感で楽しめる布絵本を作り始めた柴谷さん。今金町は「読書と作文のまち」として本に関わる活動が盛んで、絵本作家と交流があったこともきっかけとなりました。また、施設にはボランティアの外国人が多く訪れるため、英語訳も併記しています。

「ひろしくん」への思い

ヴェラス琴似には、10年以上前から部屋を確保しており、勝俊さんが施設の職を退いてから本格的に移り住みました。「そのうち夫は介護が必要になり、本当にヴェラスに入居してよかったと思いました。きっと私1人では介護しきれなかったでしょう。ヘルパーや職員の方には家族のように接していただき、感謝しています」と振り返ります。

勝俊さんのベッドの横で、柴谷さんはチクチクと針を動かしていました。琴似に来てから新たに作り始めたのは、実際に体験したことをもとに、絵と文を自分で考えた作品です。小学校の教師だったころの子どもたちや、施設でのことがおもな題材ですが、なかでも「ひろしくん」は特別な思いがこもった作品と話します。

モデルは施設に36年間入園していた実在の方で、柴谷さんが施設での仕事に自信を失くし辛い気持ちだったときに、優しく接してくれました。「ひろしくんは、私の心の支えでした。でも、彼が亡くなったときにお葬式へ行くことができなかったので、せめてもの供養にと作りました」。

これらオリジナル作品は、今金町の知人のお嬢さんが布絵本を写真に撮り、本として出版してくれました。今年2冊出版し、来年は「ひろしくん」を含めた2冊が出版される予定です。

すべてオリジナルで作った「ひろしくん」

文章は日本語と英語を併記

絵本で事実を伝えたい

現在取りかかっている作品は、戦争の記憶です。終戦70年に、特攻基地があった鹿児島県鹿屋の「海上自衛隊鹿屋航空基地史料館」を訪れた体験から生まれました。偶然、函館出身の特攻隊員の遺族と出会ったことから、資料を提供してもらい、ストーリーを組み立てながら制作中です。「私ができるのは、事実を伝えること。このような人が確かにいたこと、そして平和を伝えたいのです」。

柴谷さんは、「夫が残してくれた大きな財産は〝人〟」と言います。人との交流が作品を生み、さらに作品が多くの人たちとの接点となっていくことを、今は亡き勝俊さんも喜んでいらっしゃるに違いありません。

今年、書籍として
出版された布絵本

悠々ライフ

ヴェラス・クオーレ南19条

歌と笑顔のクリスマス会

2016年12月18日(日)

ヴェラス恒例のクリスマス会が、12月に各施設で開催されました。昨年開設したばかりのヴェラス・クオーレ南19条でのクリスマス会は2回目で、45名が参加しました。

大堀支配人からのお礼と開会の言葉のあと、全員で「ジングルベル」を合唱。引き続き、アマチュアのフォークグループ「シユガーレス」によるコンサートが行われました。お茶とロールケーキをいただきながら聴く演奏は、坂本九の「見上げてごらん夜の星を」「上を向いて歩こう」や、イルカの「なごり雪」など、昔懐かしい曲ばかり。みなさんは手拍子をとりながら口ずさんでいました。

コンサートのあとは、みなさんお待ちかねの入居者と職員によるカラオケ大会が行われました。曲目は民謡、詩吟、演歌となんでもあり。仮装して熱唱する厨房担当の方々もいて、大変盛り上がりました。

最後に、謎のマジシャンが登場。その正体は大畑ケアワーカーで、入居者が選んだ色と数字を当てるというマジックを披露し、会場を驚かせました。

感動あり、笑いありの2時間はあっという間でしたが、みなさんに心から楽しんでいただけたようです。

ヴェラス交流館

俳句、短歌、詩、エッセイなどの作品を投稿してみませんか。ヴェラス交流館は形式・ジャンルにとらわれず、自由な発想でけっこうです。各施設フロントで受け付けております。

※作品は、誌面の都合で最大6百字程度までとさせていただきます。

次回のご投稿〆切は平成二十九年三月二十日です。

短歌

太郎月地図を広げて地図になき
はろばろ遠き国想いおり

街路樹のイルミネーション通り抜け
逢わん一人が待つ冬の駅

終列車過ぎたる駅は音もなく
翼閉じゆく気配のありて

金子道子（藤野）

俳句

初釜の松籟満ちて淑気かな
かまくらを茶室と見立て雪野点
もみじ道踏むにしのびず飛び越ゆる
兎狩り雪跡追へばかくれ足
貂捕りの貂にとられて年越せず
雲低く馬小屋にての俵編み
トントンと音で持て成す晦日蕎麦
雪積みの薮出しすませ馬の鈴

伊藤志づえ（真駒内公園）

俳句

母の背を抜く子の丈や天高し
秋の蝿窓へ追ひつめ逃しけり
散紅葉二転三転して流れ

宮前トミ（石山）

母の声我をはげます夜半の雪
高齢化わがみにしみる雪しきり

河原タカ子（石山）

福寿草八十路半ばの夢多き

山本忠治（真駒内公園）

ランドセル揺れて児童の息白し
年聞けばチャンチャンコより指出して
頬かむり農機手入のつなぎ服
一字づつ写経の筆や冬座敷
赤信号小商いする焼芋屋

笑子（藤野）

クラーク先生と弟子たち〈第3回〉

高橋 秀子(琴似)

クラークは札幌滞在中、地衣類(コケ類)の採取に努力したが、これはアマースト大学の植物学教授に、タッカーマン博士という当時アメリカ一流の地衣類専門家がいて、クラークに日本の地衣類の採取を懇々と依頼していたからであった。地衣類の珍種は高山に多いと聞いたクラークは、一度は札幌近郊の高い山に登ってみようとその機会を狙っていたが、学生の勇気を鼓舞し、身体を練る目的を兼ね、明治十年一月三十日の祭日を利用し、手稲山に雪の登山を試みることにした。

一行は総数十四名、クラークは終始その先頭に立ち、深い雪を踏んで山路をわけ登ったが、かつてはマサチューセッツ義勇軍二十一連隊を率いた猛将のこととて勇気凛々たるもので、若い学生たちはあえぎあえぎその後に従った。やがて山頂に達するや、そこには山肌を包む積雪の中から大樹の梢がニョキニョキと頭を出しているのが目についた。その一つに見事な地衣が付着しているのを見つけたクラークは喜ぶこと限りなく、「夏になっては、まず登ることも出来ない巨木の頂きに、積雪の中なればこそ手が届くのだ。今は平素手に入らない地衣類を手に入れる好季節なのだ」と言って、「あれを見よ」と地衣類の所在を指し示したが、その樹は少し高くて梢に手が届かない。そこで一策を按じ、級の中で一番背の高かった黒岩四方之進をさし招き、自らは雪の上に四つん這いになって、おのれの背の上に乗りあの地衣を採れ、と命じた。

東洋風の諺の教えでは、〝三尺離れて師の影を踏まず〟と言うが、命ぜられた黒岩は困り果てた顔をしてたじろいでいた。が、クラークは早く乗れとせき立てる。仕方なく黒岩は靴を脱ぎかけると、クラークは「そのまま、そのまま」と叫ぶ。余儀なく彼は土足のままクラークの背に上り、指示された地衣を手に入れた。黒岩の手から地衣を受け取って一瞥したクラークは喜色満面、一声高く「ペン!」と弟子のペンハロー教授を叫び寄せ、「これは新種と思うが如何に」と、その意見を求めた。

この雪中登山の結果、なお様々な珍種が採集されたが、黒岩が命(めい)によってむし取ったものは、果たして学界未知の新種であった。そしてのちにタッカーマン教授が研究の結果、クラークを記念してセトラリヤ・クラーキーと命名されたが、後年、朝比奈泰彦博士により「クラーク苔」と和名が付せられた。

(続く)

※『クラーク先生とその弟子たち』大島正健(新地書房、教文館)の文章の引用を含んでいます

話題のモノゴト [2017冬季アジア札幌大会]

2016年夏、日本の金メダルラッシュで盛り上がったリオ五輪。スポーツの素晴らしさ、面白さに目覚めたという方も多いことでしょう。

2017年冬、その感動を再び、しかも北海道で見られるチャンスがやってきました。アジア地域の国々が参加する「冬季アジア札幌大会」が、2月19日~26日に開催されます。おもな会場は札幌で、スピードスケートのみ帯広で実施。スキージャンプ、フィギュアスケート、カーリング、アイスホッケーなど5競技11種別が行われます。

今年で第8回を迎える大会は、日本オリンピック委員会が中心となってアジアオリンピック評議会に提案をし、1984年に創設されました。今回は約30カ国・約1500人と過去最大の参加数になり、ゲストとして、オセアニア地域からオーストラリアとニュージーランドも初参加します。参加地域が限られているとはいえ、来年の平昌(ピョンチャン)冬季五輪を占う、重要な大会になるはずです。

大会スローガンは「ビヨンド ユア アンビションズ」(大志を胸に、その先へ)。公式マスコットは、赤いマフラーをしたエゾモモンガで、市内の小学生が名付けた「エゾモン」に決定。イメージソングを歌うのは、帯広出身の吉田美和さんがボーカルをつとめるバンド「ドリームズ・カム・トゥルー」です。PR大使には、元フィギュア選手の浅田舞さんが就任しました。

レベルの高いウインタースポーツを間近にできる絶好の機会に、競技場へ出かけてみてはいかが。

〈チケットなどの問い合わせ〉
2017冬季アジア札幌大会インフォメーションデスク
●電話:0570-08-2017
●時間:平日10時~17時

ヴェラスご入居者募集(空室)状況

(平成28年12月16日現在)

○…空室あり △…空室少ない ×…満室

満室(×)の場合でも、空室が出る可能性がありますので、まずはお問い合わせください。

詳しくは入居相談室
0120-8080-62

名称	所在地	一般棟		介護棟	
		総居室	空室	総居室	空室
ヴェラス石山	南区石山1条3丁目3-33	117	○	-	-
ヴェラス月寒公園	豊平区美園9条8丁目5-1	58	○	-	-
ヴェラス藤野	南区藤野3条11丁目10-11	139	○	-	-
ヴェラス琴似	西区二十四軒4条1丁目3-1	219	△	62	○
ヴェラス真駒内公園	南区真駒内緑町1丁目1-1	116	△	44	○
ヴェラス・クオーレ山の手	西区山の手6条2丁目1-1	-	-	59	○
ヴェラス・クオーレ小樽	小樽市花園1丁目1-9	-	-	59	△
ヴェラス・クオーレ札幌北	北区屯田8条9丁目3-7	-	-	216	△
ヴェラス・クオーレ南19条	中央区南19条西11丁目1-15	-	-	89	○

編集室便り

■2016年を象徴する漢字に選ばれたのは「金」でしたね。リオ五輪の金メダルや、政治とお金の問題など、良いことも悪いことも表しています。2017年は、本当の意味で金色の輝きにあふれた年であってほしいものです。

お問い合わせ・ご意見などは
本社「こんにちはヴェラス」編集室
☎011-520-8668

入居相談室からのお知らせ

ヴェラス施設見学会開催

■ヴェラス 真駒内公園
1月28日(土)/1月29日(日)/2月19日(日)

■ヴェラス 琴似
2月18日(土)

●11:00~14:00 ●昼食付 ●各日15名様、要予約

■ヴェラス・クオーレ 南19条 随時、見学受付中

お問い合わせ先 ▶▶ フリーコール 0120-8080-62